

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3691400075		
法人名	(有) おりの		
事業所名	グループホームほかほかⅡ		
所在地	徳島県海部郡海陽町久保字板取52番地		
自己評価作成日	令和4年1月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和4年2月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は徳島県最南端の海陽町穴喰地区にあり、過疎地域で高齢化率も高いもGH等の介護施設が少なく特に海部地域は療養型施設が遠方にしかなく、医療面でのニーズが高く、協力医療機関と密に連携を図り、看護師も配置して医療面のバックアップに関してはしっかりと図っている。南部地域であり冬でも日中は暖かく過ごせ、海、山、川に囲まれのんびりとした雰囲気の中で生活が送れ、(有)おりの理念『温もりやすらぎのあるアットホームな生活を支援します』に沿った支援とほかほかⅡ独自の理念『利用者様が日々笑顔で過ごせると共に、職員も笑顔を絶やさないこと』を目標に家庭医的な雰囲気の中で生活を送って頂けるよう日々努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、海や山に囲まれた、自然豊かな環境のなかに位置している。同一法人の運営する他サービス事業所が併設し、重度化・終末期支援や災害時における協力体制を整えている。“利用者様が日々笑顔で過ごせると共に、職員も常に笑顔を絶やさぬ事”という理念を掲げ、笑顔を引き出す支援に努めている。新型コロナウイルス感染症の流行下において、協力医や町担当者等と協議を図りつつ、感染状況に応じた面会を調整し、関係が途切れぬよう支援している。医療・看護・介護等のチームで連携し、週6回の往診や24時間対応可能な体制を整備し、「住み慣れた地域で最期を迎えたい」という利用者や家族等の思いに応えられるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかⅡ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「温もりとやすらぎのあるアットホームな生活を支援します」と事業所の目標「利用者様が日々笑顔で過ごせると共に職員も笑顔を絶やさない事」を朝礼後、唱和して職員間で共有を図っている。	事業所では、全職員で考えた、笑顔を大切にした理念を掲げている。理念は、事業所内に掲示するとともに、朝礼で唱和し、職員間での共有化を図っている。職員は、理念にもとづき、笑顔を意識した支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて施設内での交流は現在行えていないも魚等の差し入れを頂いたり等の交流に関しては現在も続いている。	事業所では、地域のボランティアや保育所の来訪を受け入れるなどして、交流している。感染症(コロナ等)の流行下においては、近隣住民からの差し入れを受けるなどして、交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が住み慣れた地域で生活が維持できるよう入居するしないに限らず、相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて集まって議場での会議は行えていないも、推進委員の方々に議事録を送り、施設の現状報告等を行っている。	年6回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、書面にて各委員に事業所の報告を行っているが、得た意見等について、議事録に記載するなどして、職員間で共有するまでには至っていない。	今後は、各委員からさらに多くの意見を得ることができるよう資料の内容等の工夫や委員への働きかけに努められたい。また、得られた意見等について職員間で共有することで、サービスの質の向上に活かすことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場や社協など提出物等がある場合は直接窓口まで届け顔見知りの関係を作り、密に連携等を図っている。	管理者は、毎月、町担当窓口に出向き、事業所の報告や相談を行っている。感染症の流行下における面会のあり方や福祉避難所としての備蓄品等について助言を得るなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては夜間は防犯上20時から6時頃まではしているも、日中に関しては開放している。身体拘束に関しては施設内研修を行ったり朝礼時に身体拘束にあたるかどうかの話し合いもしている。	事業所では、定期的に身体拘束廃止委員会や身体拘束に関する研修を開催し、職員間で意識の共有化を図っている。利用者一人ひとりの支援方法について、職員間で話し合い、拘束しないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は職員の処遇に気をつけ、朝礼時等に注意喚起、研修等を行い、虐待防止を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかⅡ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他事業所に対象の方がおられ、関係者の方と密に連絡をとり連携を図っている。また制度等の再確認も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に本人ご家族にパンフレット等使用しながら詳細に説明を行い、入居後も介護保険改正等で変更がある場合は文書を送付するか、直接訪問し説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料の支払い時等にご家族から意見を頂いたり、利用者さんから頂いた意見は朝礼時に話し合いすぐ行えそうな事は実行できるよう対応している。	事業所では、家族等の来訪時に意見や要望を聞いている。感染症の流行下においても、家族等の意向を踏まえ、安全面に配慮しつつ、面会を実施している。得た意見等を協力医や職員間で検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時等に職員から意見が出た場合は可能な限り反映できるよう対応して、働きやすい環境が整えられるよう努めている。	管理者は、日ごろから職員が意見や提案を伝えやすい雰囲気づくりに努めている。年2回、個別面談の機会を設けている。出された意見等は、職員間で検討し、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の職務で改善が必要であれば、速やかに改善を図り、働きやすい環境を整え、スキルアップ等できる環境も整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在コロナ禍によりリモートでの研修会等に参加できる体制を整え、職員個々のスキルアップが図れるよう対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	直接の交流は行えていないも、電話等でコロナ対策等の現状など情報交換、共有を行い、ネットワークの維持を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかⅡ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に不安に思っている事などを聞き、入居後も安心して生活が送れるよう、職員間で共有して本人様に安心感を与えるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	説明時に起こりうるリスク(転倒や病状の悪化)等の説明を行い、出来る限りご家族の方の要望を実現できるよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時にADL面や体調面等を見極めGHへの入居に関わらず、本人様、ご家族の意向に沿えるサービスを受けて頂けるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	慣れ慣れしい態度にならないように気をつけながらも、喜怒哀楽をみせながら共に生活を送っていく関係性を保っていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により以前のように面会が行えない状況も、感染状況のみて制限を掛けながら面会が行えるよう対応し、オンライン等も活用しながらご家族さんと共に支えあって支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍になり外出が行えず、ご家族以外の方との施設内での面会は感染対策上行えないも、オンラインや窓越し面会、また手紙のやり取りなどで関係性の継続を図っている。	事業所では、感染症の流行下においても、協力医と相談し、馴染みの理・美容院の来訪を受け入れている。また、友人との手紙のやりとりを支援するなど、馴染みの人や場との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格等を把握しテーブル等の席順を配置して居心地の空間で生活を送って頂けるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかⅡ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍で直接訪問等に行えないも、ご家族や他の施設職員さん等に最近の様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションや表情等から本人様の想い等汲み取り出来る限り実現が出来るよう職員間で話し合い、医療面での検討が必要な場合は医療機関Ns、Drに相談を行う。	職員は、日ごろの利用者とのコミュニケーションのなかで、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。職員の気づきや家族からの情報を大切にし、本人本位に検討している。把握した意向等は、職員間で共有し、支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人様、ご家族に暮らしの情報や嗜好等用紙に書いて頂いたり、聞き取りを行い入居後もスムーズに生活を送って頂けるよう対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	精神面や表情等少しでも変化がみられた際は朝礼時等に話し合い改善が必要な場合はすぐに対応できる体制を整えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	協力医療機関DrNsやPTに意見を頂いたり、ご家族の方には面会や支払い時に話さき、日々の朝礼時に職員間で話しあい、ケアプラン作成、評価を行っている。	事業所では、利用者や家族等の希望、医療機関やリハビリテーション関係者の意見等を反映した介護計画を作成している。利用者の心身状況の変化に応じて、随時見直しを行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいて日々の表情や行動等個人記録に記入して、利用者様の変化を職員間で把握してプランの見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様からの要望等出来る限り実現できるよう、職員間で話し合い臨機応変に対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかⅡ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出が行えないなか、地元的美容院や理髪店から出張サービスして頂き、散髪をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と密に連携を図っており月～土Drが回診に訪問されている。専門的な診察や精密な検査が必要な場合はご家族様に連絡し、Drより紹介状を書いて頂き職員が付き添い受診している。	事業所では、入居時の段階で利用者や家族等にかかりつけ医の希望を確認している。週6回、協力医の往診がある。感染症の流行下においては、専門医の受診には職員が付きそい、家族等と情報共有している。急変時等、24時間対応可能な体制を整備し、利用者や家族等の安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関看護師が配置されており、介護職と密に連携を図っており、夜間の緊急時も電話担当があり、急変時の体制も整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院地域連携室とも密に連携を図っており、随時連絡を取り現状の把握や必要であれば病院でのカンファレンスにも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に急変時や終末期に関する説明を行い実際に重度化を迎えた際はご家族様とDrとの話し合いにて本人、ご家族の意向を尊重し、施設での看取りの際は、医療機関と連携を図り、医療介護で最期を看取れる体制を整えている。	入居時の段階で、利用者や家族等に重度化や終末期における事業所の方針について説明し、意向を確認している。家族等の希望により、医療機関と連携しつつ、看取り支援も実施している。利用者の心身状況の変化に応じて、家族等に意向を確認し、対応方針を共有しつつ、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は協力医療機関Dr、Nsよりマニュアル作成しており、夜間等はNs配置されていないも、電話連絡が行えるよう体制を整えており、指示をもらう。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災避難訓練を行い、地震津波に関しては年1回実施、災害発生時スムーズに避難が行えるよう訓練を行っている。備蓄に関しては町の福祉避難所となっており、水や非常食、段ボールバットなど備蓄し災害に備えている。	年2回、日中と夜間の火災や地震、津波を想定した避難訓練を実施している。併設の他サービス事業所との連携体制を整え、福祉避難所としての備蓄品を整備している。管理者は、訓練に消防署の参加を得て、協力体制の構築や具体的な助言を得ることを目指している。	今後は、感染状況に応じて、避難訓練に消防署の参加を得ることができるよう働きかけられたい。消防署から助言を得たり、協力体制を整えたりすることで、災害時により安全な避難に繋がることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかⅡ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけに関しては常に注意しながら職員同士でも確認しあい利用者様を尊重、配慮が行えるよう対応している。	事業所では、接遇等に関するマニュアルを作成している。職員は、日ごろの利用者とかかわりのなかで、特に声かけに注意している。言葉づかい等について、気づいたことは、職員間で話しあうなどして、意識の共有化を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーション等の中で本人様の思いをくみ取り、出来る限り自己決定が行えるよう支援します。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の個々のペースに合わせて食事摂取や入浴など時間を決めず対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みや個性を尊重して、更衣や整容などの支援を行い、その人にあつた身だしなみが整えられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は一括して厨房で行っている。月に数回手作りの食事やおやつなど要望を聞いたり、季節に応じた物を提供し、下処理などを手伝って頂く。	事業所では、定期的に、利用者の希望を聞いて、にぎり寿司やぜんざい、ホットケーキなどの食事やおやつづくりを行っている。調理の際には、下準備など、できることで利用者に参加してもらっている。感染症対策を行い、利用者と職員と一緒に食事をとり、食事を楽しむことができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士はいないも、協力医療機関DrやNsより食事制限や栄養不足等で指示がでる場合があり、水分摂取が足りていない場合はポカリ等飲用して頂き脱水等防止が図れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、Nsより仕方などの説明や口腔ケアの必要性などその都度指導して頂き、清潔に保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかⅡ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握して出来る限り自身で行える方は見守り、一部介助にて残存機能を活かせるよう支援している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。状況に応じてポータブルトイレを使用するなどして、排泄の自立に向けて取り組んでいる。重度の利用者については、不快感を感じることはないようパターンにあわせた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の入居者様には水分を多めに摂取して頂いたり、服薬等で調整しなるべく自然排便が行えるよう対応し、-3日以上になればNsに報告し浣腸や摘便等施行して頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日に関しては高齢化等で特浴での入浴の方が増えてきており、午後からの時間帯で順番は決めず個々のペースに合わせて行っている。	事業所では、少なくとも週3回の入浴を支援している。週2回、特殊浴槽を利用した入浴を行っている。重度化に伴い、協力医と相談して、清拭や半身浴等で清潔の保持に努めている。利用者の羞恥心に配慮し、同性介助も行っている。入浴を拒む利用者については、声かけを工夫し、無理強いすることがないよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員間で話し合い年齢や体調面を考慮して日中も居室で休息が取れるよう支援し、健康面の安定維持が図れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関してはNsに指示や説明して頂き、服用する際も名前や日付等の確認を必ず行い服用したかのチェックも行い、誤薬、飲み忘れ防止を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗絵などを熱心に行われ、出来た作品は施設掲示板などに展示して意欲的に継続して行えるよう対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍や高齢化で外出等はなかなか行えないも天気が良い日は玄関先に出て日向ぼっこをしたり近くの公園へ散歩に出かけたりにして気分転換を図っている。	事業所では、気候のいい日に玄関先でひなたぼっこをしたり、体操をしたりして、気分転換を図っている。敷地内の季節の花を見に行くなど、季節を感じることができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかⅡ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設での立替払いが大半ですべてレシートで何を購入したかをご家族様に説明が行える体制を整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍でもあり以前のように面会が行えない為手紙のやり取りや電話のほかオンラインを利用したり、施設HPでブログを更新し、近況等を掲載している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるよう壁などに季節に応じた壁画等を飾ったり、入居者様が作成した作品なども展示し、居心地よく過ごせるよう環境を整えている。	共用空間は、利用者と職員が作成した季節の作品や花、写真等を飾り、季節感がある。利用者とともに掃除を行ったり、消毒や換気、加湿に気を配ったりして、安心・安全な環境を整備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様個々のペースや性格など把握して職員で話しあい一人ひとりにあった席順や居場所の確保を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使いなれた物をなるべく持ってきて頂き、入居者様の好みの配置にして今まで過ごしてきた環境に近い空間にできるように対応している。	居室には、利用者の馴染みの家具や仏壇などの調度品を持ち込んでもらっている。利用者と相談し、家具を配置し、安全で居心地の良い居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かせるよう支援しながら、転倒等のリスクも回避しADL面低下防止が図れるよう職員間で話しあい対応している。		